「フロント」～農政の前線から～

施設の更新を契機に選ばれる産地を目指す

～県営畑地帯総合整備事業　岩垂原地区～

小林（Kobayashi）　光一（Koichi）（長野県松本地方事務所農地整備課主任）

一．はじめに

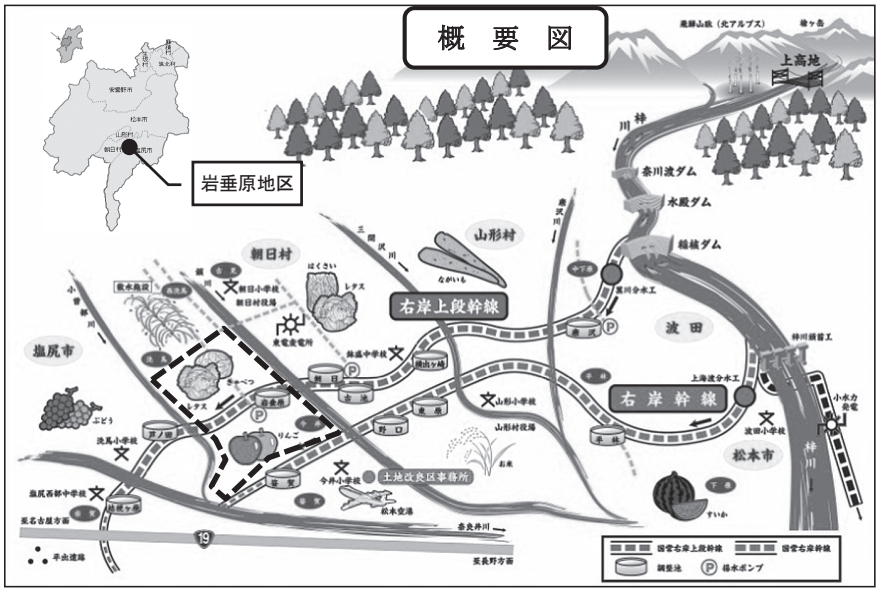
長野県のほぼ中央部、松本平の南西端に位置する岩垂原地区は、塩尻市、松本市、朝日村にまたがる受益面積440haの畑作農業地帯です。奈良井川と鎖川に挟まれた扇状地形で準高冷地の気候を利用し野菜や果樹を中心に、特にレタスの生産は全国トップクラスです。

当地域は、かつては干ばつの常襲地帯であったことから、雑穀や養蚕を主作物とした生産性の低い農業が営まれていました。

二．農業用水の歴史

松本平は、内陸性気候のため降雨量が少なく、大正14年から国・県営事業により梓川頭首工や用水路の整備を行い、5200ha余の農地に用水が供給されましたが、それでも水不足は解消されず、その後、梓川上流ダム建設による安定利水の確保を求める運動が展開され、昭和45年に東京電力のダム（奈川渡、水殿、稲核）が完成し、併せて農業用水の確保が可能となりました。これを契機に、昭和52年度までに国営事業により1万6000ha余の受益地を対象に幹線水路の整備が図られました。

その内4000ha余の畑地帯に念願の用水が導かれ、農業環境が一変し、野菜、果樹等の県下有数の産地へと変貌しました。



三．更新事業の実施

岩垂原の畑作地帯は国営右岸上段幹線水路から導かれた用水を水源としており、昭和59年度から、畑かん施設等の整備が行われました。その後、年度経過から加圧ポンプの故障や石綿管の破損による維持管理費の増大や、圃場への冠水や耕土の流亡等の被害が生じたため、平成13年度から県営畑地帯総合整備事業に着手し、本年度で完了の運びとなっています。

四．新たな配水システムの導入

従来は、14カ所の加圧ポンプを稼働させて、かんがい散水を行っていましたが、新システムでは、揚水ポンプで高台2カ所の配水池に揚水し、そこから全ての受益地へ自然圧による散水を行っています。

（効果）

1．従来の加圧ポンプは圧力変動が大きく、散水範囲が不安定でしたが、新たな自然圧方式により安定した散水が可能になり品質の向上が図れました。

2．旧管路は石綿管のため、破管による断水が多発しましたが、現在は破管事故が発生していません。

3．用水系統の一元化に伴い水利組織を5組合から1組合に統合し、人件費及び電気代、補修費の縮減が図れました。

安定したスプリンクラー
かんがい散水

配水池（PC タンク）と
揚水機場

五．おわりに

地区内の担い手農家への農地集積も促進され、集積率は事業実施前の12・4％から30・8％へと向上し、新規就農者もJA洗馬管内で平成22年度以降6名を数え、持続可能な産地形成が図られています。今後は、新鮮で美味しい岩垂原地区のレタス・キャベツ・白菜・スイカ・長芋等の高品質野菜や、りんご・ぶどう・ワインぶどう等果樹類の更なる品質の向上と消費者ニーズに応じた安全安心な農作物を提供することが期待されています。

自然エネルギーの利用拡大や維持管理費の軽減を図るため、当施設を管理する長野県中信平右岸土地改良区内の調整池を利用し、太陽光発電施設の建設に着手するなど、他に先駆けた取組みも始まっています。